



写真提供：佐伯泰英事務所

# 佐伯通信

2017年3月(平成29)  
第37号  
発行 佐伯泰英事務所  
担当/光文社  
禁・無断転載

## シリーズの転機と最後の挑戦

このところ長くなったシリーズをどうするか、版元各社と話し合いながら改変を続けている。なにしろ「居眠り磐音江戸双紙」の五十巻を始め、大半のシリーズが三十巻を超えるものばかりだ。となると新規読者は書店の本棚の前で一巻目

を手にするのを躊躇われるだろう。一応どこから読んでもいいように物語は展開しているつもりだが、やはり読者の立場に立てば、当然一巻目から読みたい、だが、三十巻となると、やはり迷うだろう。

この「吉原裏同心」一巻の『流離』が二〇〇三年三月発売で、十四年の長きにわたり、二十五巻の『流離』でいったん物語に終止符を打った。その理由は、この「佐伯通信」が挟み込まれた「吉原裏同心抄 旅立ちぬ」のあとがきで記したゆ

### 佐伯泰英 / 近刊のお知らせ

7月 7日	5月 27日	4月 15日
<b>『夢三夜』</b> <small>※2カ月連続で8月に第9巻刊行予定</small> <b>『酔いどれ小籐次(決定版)』</b> 4月7日 ①『偽小籐次』 5月10日 ②『杜若艶姿』 6月9日 ③『野分一過』	<b>『新・古着屋総兵衛』</b> <small>「佐伯通信」第38号が入ります。 (初版の初回出荷分にはのみ挟み込み)</small> <b>『嫁入り』</b>	<b>『鎌倉河岸捕物控』</b> <small>「ハルキ文庫」</small> <b>30</b>

<b>『祥伝社文庫』</b> 新装改訂版 <b>『完本 密命』</b> 発売予定	4月12日 (巻之二十二) 『再生 恐山地吹雪』 5月12日 (巻之二十三) 『仇敵 決戦前夜』 6月14日 (巻之二十四) 『切羽 潰し合い中山道』
---	---

## 「吉原裏同心抄」の開幕と新担当からのご挨拶です!

小口 稔

みなさま、「吉原裏同心」の新章開幕にあたる『吉原裏同心抄 旅立ちぬ』をお読みいただきありがとうございます。

この「吉原裏同心抄」より担当させていただきます、光文社文庫の小口稔と申します。佐伯先生のあとがきにもありますように、「吉原裏同心」は二十五巻の『流離』で一つの区切りを迎え、この巻からカバーなどの雰囲気もがらりと変えて再スタートとなりました。神守幹次郎、汀女、そして薄墨太夫あらため加門麻——三人の関係を中心とする新しい「吉原裏同心」の物語の始まりとなります。今後の展開にご注目ください。

ところで、上に自分の顔として入れておりますのは「へまムショ入道」という、「へへのへのもへじ」などと同様、古くからある文字で作った人の顔です。この文章を書いている現在は大学入試の真最中ですが、かつて私が受験した際にこの「へまムショ入道」を使った問題が出され、入学後、クラスの自己紹介文にこの顔を使いました。三十年近く前の、すべてが新鮮で何にでも全力を尽くしていた原点にかえって、佐伯先生の「新しい挑戦」を一緒に盛り上げていこうという思いを込めております。

今後とも「吉原裏同心抄」をどうぞよろしくお願いたします。

近刊・作品情報はこちらでもチェックできます。  
<http://www.saeki-bunko.jp> 佐伯泰英 ウェブサイト 検索

2017年の「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が下記出版社の協力のもと発行いたします。  
（株）光文社、（株）新潮社、（株）文藝春秋、（株）角川春樹事務所、（株）双葉社

えここでは繰り返さない。私が時代小説文庫書き下ろしに本式に關わってから十六、七年が過ぎ、出版界の状況が大きく変わった。またシリーズものの文庫書き下ろしもその「役割」を終えたように思う。そのような最中、既存のシリーズに手を加えつつ、どう延命させるか、難しい選択に作者も版元も書店も直面している。

この「吉原裏同心抄」として、十六、七年前とは違った悪天候の中での船出だ。だが、作者としては、なにか手を付けられないかぎり、出版不況の波に飲み込まれてしまう。変化するのは、だれしも覚悟がある。今回は私をサポートしてくれる版元スタッフも担当が替わる。松岡俊君から小口稔編集長となる。年齢を考えると私にとって最後の挑戦だろう。今後ともよろしくお願いたします。

出版社からのお知らせ

ハルキ時代小説文庫

**鎌倉河岸捕物控**

30巻記念 プレゼント企画進行中!

4月15日刊行予定

『嫁入り』

『鎌倉河岸捕物控 三十巻』をお買い上げの方から、抽選で左記をプレゼントいたします。

A 『鎌倉河岸捕物控』特製の絵葉書5枚組を100名様

B 『橘花の仇』

鎌倉河岸捕物控「一巻」著者サイン本を100名様にふるって応募ください。詳しくは「嫁入り」の帯裏をご覧ください。

角川春樹事務所